

•会報第8号の発行によせて•

今回の作家紹介では今年3月に京都精華大学版画専攻を退職された黒崎彰氏を取り上げ、作品制作における様々な思いを伺いました。また、この会報(PANN)を発行している、KYOTO版画展(版画京都展実行委員会)を立ち上げたきっかけなどもお聞きしました。そして、文化庁からの海外研修に行っておられた坂爪厚生氏のオランダ研修の滞在記や、KYOTO版画展出品作家による作品研究会、当委員会開催の『日本・タイ国際版画バンコク展』の報告など、それぞれ大変興味深い内容となっております。

■作家紹介

黒崎 彰

表紙作品

『馬のくら：〈遊牧の民シリーズ〉より6』
木版画：7版6色／韓国楮紙／89.5×59.5cm
2002制作

■枯葉マークのオランダ滞在記－その2－

坂爪 厚生

■版画京都展実行委員会 活動報告

■掲示板

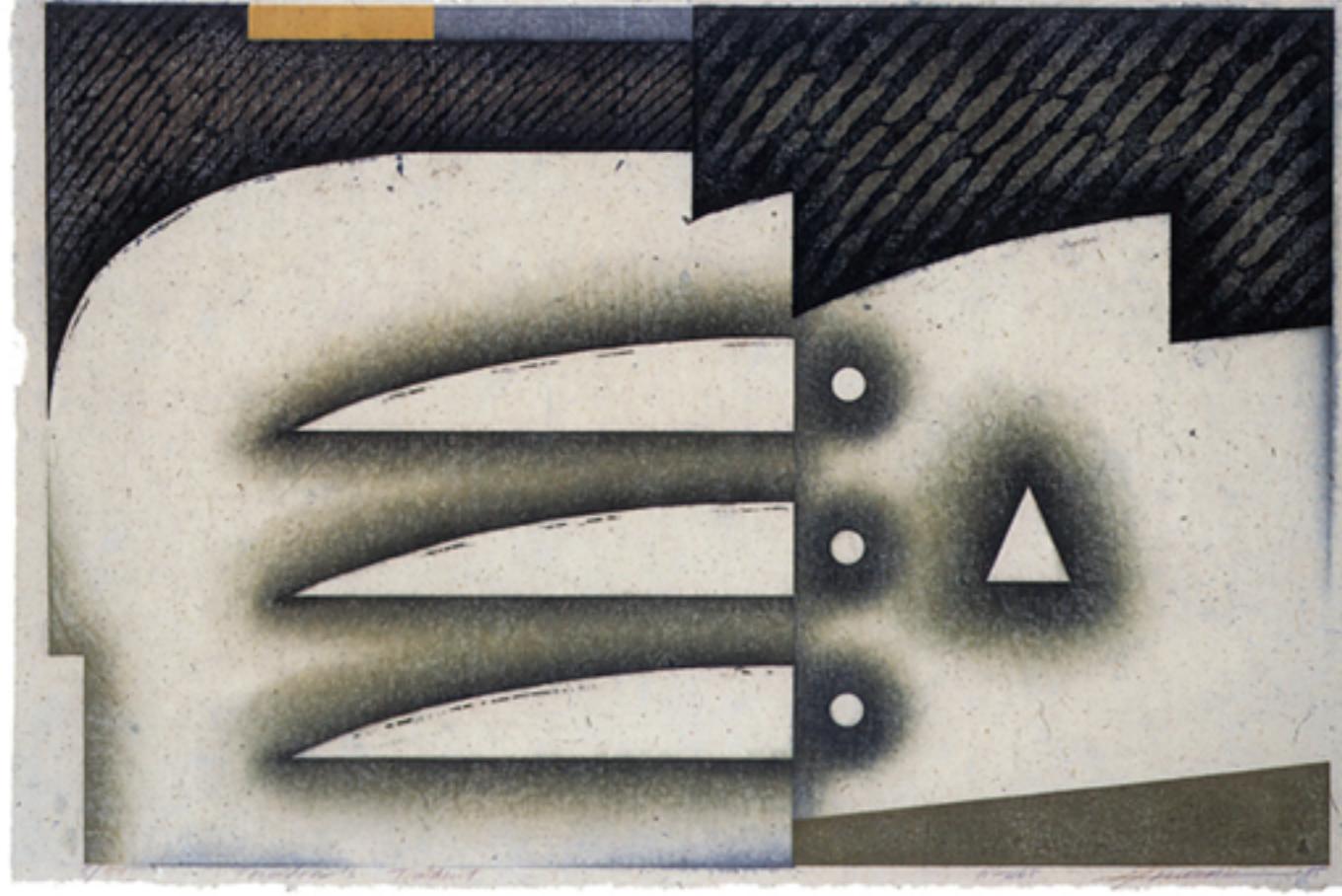
KYOTO版画2007

Printmaker's Association of Nishi Nippon



^質問4▼
「グループ（団体）に所属して作品を発表する事について、どうお考えですか？（メリット・デメリット等）

団体のメリット、デメリットはこれまで多く語られてきました。それでも無くなりはしません。つまりメリットがあるからです。地域を越えたブロの友を作り、互いに研鑽、勉強ができるからです。日版会は少々特別でそれは職能団体的で



^質問3▼
版画京都展を立ち上げたきっかけについて聞かせて下さい。

すべて書けば長くなりますから、簡単に要点だけ述べます。

①田島征彦氏との次のような会話が最初の契機となりました。

②私たち同時代の作家たちも若い時には先輩（前田藤四郎先生、川西裕三郎先生たち）にお世話をなりましたが、同じことをするべき年齢になった。

③関西にはフリーの版画家が多い。日版会の作家

が少なく、また誤解もされている。日版会の歴史的存在や功績に関して一般的な理解をすすめる必要がある。

④現今の日版会は関西のために何をしたか、答えはNO。東京展のためだけに会費が使われています。ならば、西日本の力を見せてその誤りに自覚を促したい。

⑤東京展は巨大になり過ぎ金もかかり、一年中そこで終わっている。もっと楽しく、自由な版画展ができるのではないか。などなどで始まりました。

^質問4▼
「グループ（団体）に所属して作品を発表する事について、どうお考えですか？（メリット・デメリット等）

団体のメリット、デメリットはこれまで多く語られてきました。それでも無くなりはしません。つまりメリットがあるからです。地域を越えたブロの友を作り、互いに研鑽、勉強ができるからです。日版会は少々特別でそれは職能団体的で



^質問2▼
「作品を作る上で、一番大事にされている事は何ですか？」

単純な答えかもしれません、以前の作品より、さらに新鮮で新しく、実験的な作品を作ることです。後で振り返ってみると、いつも思い通りに行つてはまだ怨念の残る死、白にはそれも無い死。ちょうど、「ネクロボリス」（死の都市）というテーマを思付いた時、使う色は白しか無いと考えました。

^質問1▼
「近年、作品に白が使われることが多くなりました。ボクは長い間「浮世絵木版画」の技法にこだわってきました。そこでは、雪などの表現に直接ふりかけることはあっても、白を刷ることはあります。白は常に気があり、地色に使ったことの無い白を刷つてみたいと思ったからです。また、白や黒には「死」のイメージがあります。黒はまだ怨念の残る死、白にはそれも無い死。ちょうど、「ネクロボリス」（死の都市）というテーマを思付いた時、使う色は白しか無いと考えました。

^質問2▼
「近年、作品に白が使われることが多くなりました。ボクは長い間「浮世絵木版画」の技法にこだわってきました。そこでは、雪などの表現に直接ふりかけることはあっても、白を刷ることはあります。白は常に気があり、地色に使ったことの無い白を刷つてみたいと思ったからです。また、白や黒には「死」のイメージがあります。黒はまだ怨念の残る死、白にはそれも無い死。ちょうど、「ネクロボリス」（死の都市）というテーマを思付いた時、使う色は白しか無いと考えました。



^質問3▼
「作品を作る上で、一番大事にされている事は何ですか？」

単純な答えかもしれません、以前の作品より、

さらに新鮮で新しく、実験的な作品を作ることで

す。後で振り返ってみると、いつも思い通りに行つてはまだ怨念の残る死、白にはそれも無い死。ちょうど、「ネクロボリス」（死の都市）というテーマを思付いた時、使う色は白しか無いと考えました。

^質問4▼
「作品を作る上で、一番大事にされている事は何ですか？」

単純な答えかもしれません、以前の作品より、

さらに新鮮で新しく、実験的な作品を作ることで

す。後で振り返ってみると、いつも思い通りに行つてはまだ怨念の残る死、白にはそれも無い死。ちょうど、「ネクロボリス」（死の都市）というテーマを思付いた時、使う色は白しか無いと考えました。

^質問5▼
「二〇代～三十代の若い作家がどんどん活躍していることについて、どう思われていますか？（作風、作家自身とお話されて感じること等）

若い作家が活躍するのは当然のこと。もしそうで

ないなら太陽が昇らない毎日です。ただ、ボクを

含めて作家はいつでもよい作品を作り、活躍した

いと思うのですが、若い作家はよい競争手だと思います。負けたくありません。

^質問6▼
「今後の作家活動について、実現させたい夢など教えて下さい。

今後の作家活動について、実現させたい夢など教

えて下さい。

①現在制作点数六〇一点、これを一〇〇〇点に近づける努力をしたい。

②版画、木版画、紙のルーツを探るリサーチを続

けたい。そのためネパール、ブータン、ベトナム

は絶対に訪ねるぞ！

③教育現場から協力して、もう一、三人子供を持

つのもいいなあ。実現不可能（？）であればアドバ

ンサーでいたい。

④少子化回避に協力して、もう一、三人子供を持

つのもいいなあ。実現不可能（？）であればアドバ

ンサー（養子）も考えていています。などなど…



Kurokawa 黒崎 彰 Akira
— 木版画・ペーパーワーク —

「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。今回は黒崎彰さんです。黒崎さんは京都を活動の拠点としています。木版画やペーパーワークなどを制作されています。伝統的な浮世絵の技法を用いた木版画作品は、美しく且つ大胆で、その力強さは見るものを圧倒します。

KYOTO 版画 2007



GAUの入口の右側に個展会場となる広いスペースのギャラリーがあり、その奥と二階が仕事場になっていて、何人の作家が仕事をして

もいる。GAUの入り口の右側に個展会場となる広いスペースのギャラリーがあり、その奥と二階が仕事場になっていたところか。街はドーム塔とその隣に来た黒崎先生、アムスの画廊オーナーの松本さん、三好さんとGAU（グラフィックアトリエ・ユトレヒト）にかけた。

ユトレヒトはオランダ第四の都市で、日本での京都といったところか。街はドーム塔とその隣に来た黒崎先生、アムスの画廊オーナーの松本さん、三好さんとGAU（グラフィックアトリエ・ユトレヒト）にかけた。

GAUの入り口の右側に個展会場となる広い

スペースのギャラリーがあり、その奥と二階が仕

事場になっていた、何人の作家が仕事をして

もいる。

GAUの入り口の右側に個展会場となる広い

スペースのギャラリーがあり、その奥と二階が仕

事場になっていた、何人の作家が仕事をして



2005年の京都市美術館別館の『日本・タイ国際版画展』に続き、今年の2月にタイ、バンコクのクイーンズギャラリーにて『日本・タイ国際版画バンコク展』を開催し、出品作家ら27名(内会員9名)が会期に合わせてタイを訪れました。その後、カンボジアに渡り世界遺産をたくさん見て周り、収穫の多いツアーとなりました。

写真：左上/クイーンズギャラリー/王宮近く市の中心地に位置するバンコク銀行所有の美しい展示施設：中央上/ギャラリー2F日本作家作品展示風景：右上/ギャラリー3Fタイ作家作品展示風景：左下/カンボジア、アンコールワットにて：右下/展覧会オープニングセレブレーション



今年の3月に京都会館第2会議室にて、総会と日本版画協会展に出品予定作品の批評会、勉強会をしました。その後、京都会館カフェテラスにて懇親会を開き、会員の皆さんと楽しい時間を過ごしました。今年度は7月にも開きますので、ぜひご参加ください。

写真：左/作品講評会：右/懇親会
(写真提供：汾陽佐和子委員)

版画京都展実行委員会活動報告

昨年の12月に版画集『京都十景』の出版とその企画展を京都の平安画廊で行いました。
2008年12月に同画廊にて2回目を行う予定です。出品作家は固定せず、当委員会メンバーの中から数名を変えていきます。

作品：右/祇園/川西祐三郎/木版画
左/清水寺/山本桂右/リトグラフ
写真：展示風景



掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●朝日みお●

<展覧会>
会期：2007年4月11日～18日
場所：由美画廊
浜松市大工町303-15
TEL：053-455-0004

<展覧会>
会期：2007年9月27日～10月9日
場所：玉川高島屋 ルーフギャラリー
世田谷区玉川13-7-1
TEL：03-3709-2222

●鈴木勝成●

<鈴木勝成展>
会期：2007年5月15日～27日
場所：平安画廊
京都市中京区寺町三条上ル
TEL：075-231-0694

●羽田多栄子●

<展覧会>
会期：2007年7月16日～21日
場所：番画廊
〒530-0047大阪市北区西天満2-8-1大江ビル1F
TEL：06-6362-7057

●柴田真由美●

<柴田真由美 版画展>
会期：2007年4月2日～7日
11:00～19:00(最終日17:00迄)
場所：ギャラリー神宮苑
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-14-17
TEL：03-3470-7732

<柴田真由美版画展>

会期：2007年5月21日～26日
11:00～19:00(初日13:00～、最終日16:00迄)
場所：光画廊
〒104-0061 東京都中央区銀座7-6-6 丸源ビル24-1F
TEL：03-3572-1855

編集後記

今回の号からカラーとなり、誌面デザインも新しくなりました。今回はスペースの都合上、公募展情報は割愛されて頂きました。公募展情報は各美術系雑誌や公募展の紹介サイト『登竜門』(http://compe.japandesign.ne.jp/)などでお探し下さい。委員の皆さんからのご寄稿や、展覧会情報などを広く募集しておりますので是非お寄せ下さい。それでは、今後とも宜しくお願い致します。尚、掲載希望の記事、情報等は、会報担当か事務局までお願い致します。会報担当 ツツミアスカ、福岡舞子